

「神をほめたたえる人生」

～神様の奇跡とは何なのか？～

そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあっても恥じることなく、かえって、いつものように今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。

ピリピンへの手紙1章20節

小林麻央さんの死に対して国内外から大きな反響の声が寄せられた。特に、イギリスBBCは昨秋、特集「100 Women 2016(2016年の100人の女性)」に小林さんを選出。世界各地で人の心を動かす女性100人を選ぶ4回目の特集で、小林さんは日本人では初めて選ばれていました。ガンとの壮絶な闘い。その中での家族の一人ひとりとの絆。その中でも市川海老蔵さんの変化は本当に素晴らしいものでした。

現代はガンばかりではなく、多くの難しい病気との闘いを見ます。その中で私たち信仰者は、「癒し」という奇跡を神様に熱心に祈ります。しかし、その奇跡を見ることのないまま、天に召されるという現実と直面します。そんな時、神様の奇跡とは何か？を考えさせられます。

先週金曜に戸倉教会に行きました。私たちが上田に来る前、戸倉で伝道していましたが、その頃宣教師として戸倉に来られたロビンス宣教師家族の次女ハンナさんに会うためでした。当時ハンナさんは4歳でしたが、今ではもう30歳の立派な女性となり、フィリピンで、多くの貧しい子供たちに福音を伝える働きをされています。

その子供たちの中で、一人の6歳の女の子がいますが、2年前に出会った時、その子の右足が生まれつき奇形状態で、後ろ向きになっている状態で歩いていました。かわいそうに思ったハンナさんは信仰を持って神様の癒しの奇跡を祈りました。しかし、何も起こりませんでした。そうして、2年の月日が過ぎました。そんな中神様の奇跡とは何かをハンナさんは考え続けていました。そして、ある日曜日の賛美の時間に、ハンナさんはかつての足の悪い女の子が、目を閉じ、手を上げ、心から神様を礼拝し、賛美している姿を見ました。それを見た時に、これこそ、主が与えたかった奇跡であると悟りました。足が治るという目に見える現象ではなく、最も大切な奇跡は、目に見えない心が変われるという奇跡であると。そして、その奇跡は、偉大な信仰によってなされるのではなく、主の臨在によってなされるということを見ました。その後、子どもたちを援助してくださるサポーターの方から、彼女をサポートしたいという申し出があり、彼女の足を治す病院にかかるための費用をすべてサポートするという提案がありました。そのサポートのお陰で、今では少女の足は順調に回復しているということです。あるとき、その女の子はハンナさんに「これは神様の奇跡だね！」と、治療が受けられるようになったことへの神様の奇跡を称えてハンナさんに語りました。その女の子も礼拝と祈りの中で神様の偉大な奇跡がなされたことを悟ったのだと感じたそうです。